

あなたは大学で  
何をしますか？



理学部附属植物園 植松 千代美

### 新入生の皆さんへ

まずは、入学おめでとう。「まずは」とただし書きをつけたのは、すべての新入生が念願かなうて大阪市大の門をくぐるのではないかも知れないことをおもひはかつてのこと。事情はいろいろかも知れませんが、ともかくにもこれまでとは違う「大学生」としての新しい日々が始まるのですから「おめでとう」なのです。

### 大学で何をしますか？

大学はもちろん教育と研究の場です。しかしもう少し違うとらえ方をしてみませんか？大上段に構えるなら大学は「自分なりの哲学を見つける所」。学生時代は「価値観」、「人生観」、「世界観」を模索し、その基礎を形作る時期と言えるでしょう。これらをわかりやすく言い換えるなら、「価値観」とは自分が何を大切と考えるかということ、「人生観」は自分がいかに生きたいかということ、そして世の中をどう捉えるか、どんな世の中であって欲しいと考えるのかというのが「世界観」。これ

# アン ロゾ Un roseau

総合教育科目ガイドブック

No.12

タイトル“Un roseau(アン ロゾ)”  
—— 一本の葦 —— について

B.Pascal (1623-1662) は、一人一人の人間の存在を一本の葦に例えました。

葦は河岸や湖岸などの水辺に生える、ススキに似た植物です。

その存在は真にはかなく、人も同様で、その存在はきわめてはかないものであると…。

しかし、Pascalは言うのです。

L'homme n'est qu'un roseau, le plus faible de la nature, mais c'est un roseau pensant.  
(ロム・ネ・カン・ロゾ、ル・プリユ・フェーブル・ドウ・ラ・ナトゥール、メ・セタン・ロゾ・パンサン)

—— 人は一本の葦に過ぎない。自然界でもっとも弱いものだ。しかしそれは考える葦だ。——

人間は水辺の一本の葦のようにはない存在ではあるのだが、

考える(思考する、思想する)という行為によって有形の現象の世界(形而下の世界)のみならず、その奥にある広い広い世界(形而上の世界)を知ることができる存在なのだ。

Un roseauとは「あなた」のことなのです。

大学生らしい学びとはいったいどのようなものでしょうか。それは一言で言えば、「自学」だと思います。自学自習、自習という言葉は皆さんにも馴染みがあるでしょうが、自学にはそれは少し違う意味が含まれているように思います。大学生の皆さんには是非、自学をとおして自分の世界を広げていくことを期待します。大学生はキャンパスで授業を中心に学びますが、これからの人生で大事なことの多くは授業以外の、広い世界をフィールドとして自力で学び取っていくものだと思います。社会人になってからも学びつづけることは必要になります。そのときの学びの基本は自学です。大学は授業で学ぶ最後の場であると同時に、自ら学ぶという、自学の力を身に付けるための最初の場でもあります。大学生の皆さんには狭いキャンパス空間だけでなく、広くキャンパスの外も活かして自学を展開することを期待します。今の大学では就職活動の時期が早まって、早く卒業に必要な単位をそろえようと、過密な

大学教育研究センター 矢野 裕俊



新しい自分に出会う  
—— 自学のすすめ ——



らを模索し、構築する作業を行う場としての大学。皆さんはそこで数年間過ごす権利を獲得したのです。獲得した権利はきちんと行使しなければなりません。皆さんはここで過ごす数年の間に、価値観や人生観、世界観を構築することが求められているのです。では、どうしたら自分なりの価値観や世界観を身につけることができるのでしょうか？答は決して一つではなく、いく通りもの方法があります。書物との出会いや専門の学問を通じてと言う場合もあるでしょう。私のお薦めは少し違います。様々な人と出会い、多様なものの方や考え方があることを知ること、です。幸いにも大阪市立大学は総合大学で、様々な専門分野があります。皆さんは意識さえすれば多くの、多様な考え方の人々と出会うことができます。同じ学部の友人、違う学部の友人、様々な国からやってきた留学生、サークルの先輩、後輩、研究室の大学院生や研究員、教員、職員と実に多様な人々が市大のキャンパスにはいます。たとえば初年次セミナーも様々な学部の同級生と学ぶ良いチャンスと言えるでしょう。臆せず、一歩踏み出してみてください。

### 避けては通れない道

皆さんが自分なりの価値観や世界観を模索し、ひいては自分なりの哲学を構築して行くときに、ぜひとも忘れて欲しくないことがあります。それは皆さんが好むと好まざるとに関わらず、今が、環境の世紀であるということです。地球温暖化は今なお進行中であり、かつてないスピードで生物種が絶滅し、生物多様性が失われつつあります。このような時代を生きて行くあなた方が、どのような選択をするかによって、地球の未来は大きく変わるはずですよ。

### 大阪市大に植物園？

ところで皆さんは大阪市立大学に植物園があることをご存知でしょうか？杉本キャンパスから電車で約1時間半、大阪府交野市私市(きさいち)に理学部附属植物園は位置しています。1950年に創設され、人間で言えば遺暦を過ぎた所です。甲子園球場6個分、25.5haの敷地には、日本を代表する11種類の森や、世界各地の森が再現、展示されています。居ながらにして日本や世界の森を体験することができる植物園は世界にも例が無く、非常にユニークな展示といえます。

### プロジェクト開始

2009年10月から植物園をフィールドとして環境問題研究プロジェクト、都市と森の共生をめざして、が日本生命財団の助成を受けてスタートしています。身のまわりから自然がどんどん失われてゆく中で、自然を大切にしたいと考える人が増えていきます。ただ、都市の暮らして自然が切り離され、自然を守るために何をしたら良いのか、とてもわかりにくくなっています。そんな都会の人々が再び自然とよりよい関係を築いて行くためには、自然を体験的に知ることが一番です。そのような機会を提供することこそ、大学附属の森の植物園が果たすべき役割といえます。

### 植物園の森が教えてくれること

プロジェクトでは様々な分野の専門家が植物園の森に挑んでいます。たとえば森林機能グループは森のCO<sub>2</sub>吸収機能を明らかにしようとしています。森林は地球温暖化の主要な原因であるCO<sub>2</sub>を吸収することから、温暖化防止の役割を期待されています。どのような森が、どの程度のCO<sub>2</sub>を吸収するのか、だれもが一番知りたい点ですが、案

時間割を組んでいる人が大変多いようですが、それではじつくりと時間をかけて自ら学ぶということとは望むべくもありません。自学は、授業の合間に適度に空き時間を設けるなど、ゆとりとした生活時間割がなければ実現しづらいことです。

### 学ぶことにある二つの側面

学ぶことには二つの側面があります。一つは煉瓦を積み重ねるように知識やスキルを「ツッコ」と積み上げていった結果一つの高みに到達するという面で、受験勉強がそうです。他方、学ぶことには今ある自分を壊すという、正反対の側面があります。学びはそれによって自分が変わるもの、でもあるのです。学ぶとは、「自分が新しくなること」というのは、本理学研究科教員OBの田中礼二先生が私も学生に混じって聴講した「基礎物理化学」授業の冒頭でおっしゃった言葉です。田中先生は、私たちが棲むかけがえない地球の自然の成り立ちは、エントロピーの法則を学ぶことにより深く理解できるのだとの思いを込めて、学ぶことをそのように表現されたのです。教育学を専門としていながら、学ぶとは何かという問いに對する即座の答えも用意していなかった私にとって、学ぶとは自分が新しくなること、というシンプルなフレーズは新鮮で、大変説得力をもつものでした。哲学者の鷲田清一さんは「まなび」は、自分が打ち砕かれる経験だとさえ表現しています。(鷲田清一ほか「おせつかい教育論」140B, 2010年。)学ぶことで人は成長するのですが、成長とはつまり苦闘の繰り返しであるのでしょ。

### 仕事と学び

今年生誕120年ということで、1月に難波の高島屋で「河井寛次郎」生命の「歓喜」展が開かれました。河井寛次郎は戦前に今の東京工業大学で窯業の理論と技法を学んだ後、作陶に励み、古今東西の陶器や造形に学びながら、たくいまれな才能を開花させて若い頃から素晴らしい作品を次々に発表した陶芸の大家でした。展覧会に陳列された作品は内からエネルギーが湧き出てくるような力強さと堂々とした存在感があり、見る人の心を打つものでした。展示作品の中には、毛筆の書があり、「新しい自分に出会う 仕事する」と書かれた色紙があり、はつとさせられました。河井寛次郎にとっては、仕事は新しい自分に出会うこと「学びでもあったのです。作陶の中では文字どおり作っては壊し、壊しては作ることが数限りなく繰り返されたことでしょう。

仕事について次のような詩を残しています。「仕事は仕事をしてあます／仕事は毎日元気です／出来ない事のない仕事／どんな事でも仕事はします」と始まって、「仕事の一番すきなものは／くるしむ事がすきなのだ／苦しい事は仕事にまかせ／さあさ吾等はたのしみましよう」と締めくくられています。仕事をするのは仕事であって、自分ではない。いい作品が出来上がっても、それは仕事が終わるまで、自分自身はたまたまその過程を楽しませてもらうだけだ、と言わなければなりません。たえず新しい挑戦をつけ、見事な作品を次々と世に送り出した河井寛次郎の仕事が楽であったわけはなく、苦しみを伴う歩みであったのでしょが、苦しさも、それを引



外わかっていません。植物園の様々な森はほぼ同じ立地条件に作られ、しかも植林から今日までの、樹木の成長記録があります。こんな森はなかなかありません。この記録を解析すれば、森によつてどのようにCO<sub>2</sub>を吸収能力が異なるのか、どんな森がCO<sub>2</sub>を吸収能力が高いのかを知ることができます。

動物相調査グループは植物園の森にキシノウエタテグモやオオムラサキ、アオヤンマなど絶滅危惧種や稀少種が多数生息していることを明らかにしてきました。人間は森を作ろうとして木を植えてきましたが、その人間の意図を超えて多様な生き物が生息する豊かな生態系が作り出されていることがわかったのです。地球上では1分間に約14haの森が失われ続けています(2000年~2005年の平均、FAO2005年データより)。けれども私たちは森林減少を嘆くだけではなく、森を作り、生物の多様性を呼び戻すことができる、それを植物園は教えてくれます。

### 百聞は一見に如かず

60年前、植物生態学者達が始めた、日本の典型的な樹林を再現・展示するという壮大な試みは、今、ようやくその成果を検証する段階に入った所です。まさに超長期の実験です。こんなことが出来る大阪市立大学に懐の深さを感じます。創設当初、森を作ろうとした先輩たちは環境の世紀が訪れることを知っていたのでしょうか。その大学に学ぶ皆さんにはぜひ一度植物園を訪れていただきたいと思います。百聞は一見に如かず、です。

### 学ぶとこいつと

最後に、私の好きな林竹三氏の言葉を皆さんに贈ります。「本当に学ぶとこいつとは、

学んだことによつて何かが変わる。行動が変わること。」(原文通りではありません。悪しからず。簡単そうで難しいことです。けれどもいくつになつても、大切にしたいことです。大学においてさえも新しい知識の詰め込みだけをしていただけでは、本当に学ぶことは難しいでしょう。

私が嬉しく思っていることがあります。一つはかつて1回生セミナー(現、初年次セミナー)で「環境」をキーワードに共に学んだメンバーが、環境問題を考えるサークルを作ったこと。そしてもう一つは、「21世紀の植物科学と食料・環境問題」を受講した学生が中心となり、割り箸を回収する活動を行っていること。生協で割り箸回収ボックスを目にした方もいるでしょう。いずれも演習や講義をきっかけとして、自ら考え、何かが変わつて、行動に表れたと理解しています。新入生の皆さんも、充実した時間を過ごされますように。

### 最後に

大阪市大の学生・院生は学生証提示により植物園に無料入園出来ます。開園時刻は9:30~16:30(ただし入園は16:00まで)、休園日は毎週月曜日、植物園へのアクセス等の詳細は植物園HP <http://www.sciosaka-cu.ac.jp/biol/botan/index.html>を参照して下さい。

### 植松千代美(つえまつちよみ)

1985年東北大学大学院農学研究所修了、農学博士  
現在、理学研究科生物地球系専攻講師(理学部附属植物園)  
専攻分野/植物遺伝学  
全学共通教育の担当科目/「初年次セミナー」「21世紀の植物科学と食料・環境問題」「植物と人間」「生物学実験A(分担)」

き受けてくれているのは仕事であつて、自分は楽しむのだというのです。そんなふうに感じながら仕事ができれば素晴らしいと思いませんか。「この詩の「仕事」は「研究」や「学習」と置き換えることもできるでしょう。

富や名譽をいっさい求めず、ひたすら美と生命の表現を追求したこの人は、その生涯の中で一つの境地に安住することなく、たえず自分の今を壊し、新しい自分になる努力をつづけてきたのでしょう。

### 輝く個性

展覧会についても一つ紹介すると、残念ながら大阪では観られません。昨年から今年にかけて、「ツボ展」こうして私はツボになつた」が開催されています。これは単に名作を展示するのではなく、一人の偉大な画家がどこで誰の影響を受けたのか、誰から徹底的に学んで個性輝く作品を生み出すに至つたのか学べるように工夫された展覧会です。若き日のツボは皆さんご存じのミレーの名作「種蒔く人」の模写を繰り返し行い、畑で働く農夫の所作を徹底的に研究したといえます。天才画家はそうした模写をとおして自分の個性を形作つていったのです。偉大な個性はある時ひらめきのように発現するのではなく、先人のすぐれた業績の徹底した模倣や研究によつて形成されていくものなのでしょう。ろくに学ばず、先人の作品との対話をとおした苦闘も経ないで個性がつかられ輝くということはありません。

個性とは自分だけに固有な特徴なのですが、それはこのように自分にとつて優れたモデルとなる人や作品と同一化することを経てはじめて形を表していくものだと思います。個

性的とは、突飛な言動によりせつちかに他人と違つたようを求めることではありません。何ら自立したことをするわけでもない人が大変個性的に見えたりするのは、個性と模倣や同一化とが対極にあるものではないからです。

### 街を学びのフィールドに

さいわい大阪は市立の社会教育施設だけを列挙しても、美術館、歴史や自然をテーマにした博物館など社会教育施設が充実しています。これだけそろつている都市は東京を除けば他にはありません。皆さんは大学に加えて文化的に非常に恵まれた都市の一角で学んでいるわけです。それを活かして、大阪の街をキャンパスにして学ぶことにチャレンジしてはどうでしょう。

一度是非美術館や博物館に足を運んでみてください。そこではきっと、不思議な力をもらつたり、いろんなことに気づかされたりするはずですよ。そして、もっと見晴らしのよい場所に出る(内田樹)ことがわくわくするものであることを実感できます。そこから、それまで見えなかったものが見えるようになったり、それまでとは違つた見え方がするようになるはずですよ。そうした新しい学びへと出かけて、自分の個性を育てていってください。

### 矢野裕俊(やのひろとし)

1951年生まれ  
1984年、大阪市立大学大学院文学研究科単位修得退学、博士(文学)  
現在、大学教育研究センター教授  
専攻分野/教育学  
全学共通教育の担当科目/「ライフサイクルと教育」「大阪市大で学ぶが」「初年次セミナー